

Dear地球民

第24号
2001年3月発行

編集発行
〒259-0303

ゆがわら国際交流協会
神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 Tel.0465-63-0111



ゆがわら国際交流協会恒例のクリスマスパーティー

毎年12月22日は曜日に関係なく、クリスマスパーティーが開かれる。会員非会員に関係なく参加でき、ファミリー全員が集まって、楽しい一時を

過ごす。2000年は友情出演の生バンド演奏付で贅沢なパーティーだった。

(at ゆがわら童夢)



21世紀まであと数日、私たち国際交流協会では12月22日、ゆがわら童夢でクリスマスパーティーを行った。参加者は16人の子供を含む65名。「中島吉郎サウンドフィッシャー」の演奏するラテン音楽をバックに贅沢なパーティーとなった。バンドメンバーのご好意で友情出演となり、20世紀最後にふさわしい思い出を作ることができた。



サククス
中島吉郎さん



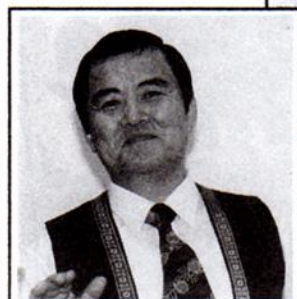
ドラム
太田克巳さん



ギター
西戸紀孝さん



サククス
星繁春さん



パーカッション
佐野修さん

今回のパーティーには以前湯中に勤務していたオーストラリア人のマコーミック先生の妹さん(12才)

が特別参加し、湯河原の子供たちと楽しそうに遊んでいた。

私たちのXマスの特徴である仮装コンクールが省略されたのは残念だったが

終始流れていたラテン音楽のBGMと中央に並べられた豪華な料理と飲み物がその空虚な部分を満たしてくれた。

午後6時から始まって1時間半も過ぎたころ、ゲームタイムとなり、これも恒例のビンゴが始まった。今年は豪華賞品が並べられ、大人も子供も熱気に満ちての戦いとなった。

ビンゴ大会が終り、その熱気が覚めやらぬ内に参加者が持ち寄った品のチャリティーオークションが始まった。1つ1つの品に多額の入札が入り、今年の売上げは新記録となった。オークションを最後にパーティーは終了した。

Xマスオークション売上金の送り先

NO	送り先	金額	内容
1	アプサラプロジェクト2000	10,000	カンボジア児童奨学支援
2	ネパール教育支援の会	10,000	神保先生
3	アジア交流研究所	10,000	スリランカNGO支援
4	シャプラニール	13,716	インド西部地震
5	あしなが育英会	10,000	遺児奨学資金
6	あしなが海外遺児心の支援口	10,000	
合 計		63,716	



後期語学講座

- 英語講座
2000年9月14日～11月30日
講師：大石レノア先生（湯中）
- 韓国語講座
2000年9月26日～10月24日
講師：安真姫先生（東大）
- 中国語講座
2000年9月27日～10月25日
講師：李平先生（東海大）



ゆがわら国際交流協会主催の外国語講座は、毎年前期後期の2期に分けて行われ、今年度後期の講座を受講された3名の方たちに受講終了後に感想文を書いていただきました。



受講生からのご寄稿

英会話講座を受講して

山本 香さん（中央）

今回、ゆがわら国際交流協会主催の英会話講座を広報で知り、初めて受講させていただきました。

初めてだったので、不安でしたが周りの方々ともすぐに打ち解けて勉強できました。

先生は、とても美人で気さくな方で、また、一緒に勉強した方々も大変熱心で感心いたしました。特にゲームをしながら、楽しく会話ができるようになりました。

最初は、先生の会話がほとんど分からなかったのですが、10回の講習で、先生の英語が大分理解できるようになりました。

機会があれば、また、参加させていただきたいと思っております。

レノア大石先生の楽しい英会話講座に参加させていただいてありがとうございました。





初級韓国語講座に参加して 神谷優子さん (吉浜)

9月26日から10月24日までの毎週火曜日に5回の日

程で、韓国語の講習が行われるというので、こんな機会はありません、早速申し込みました。

申し込みをしてから第1回目の講座が行われるまでの間、ハングル語(韓国語)のあの文字は全然分からないし、大丈夫かなと不安でした。でも、第1回にしてそんな不安は一変しました。先生が現役の学生さんであり、自分が日本語を勉強した経験を生かして、とても丁寧に教えてくれました。

まず、ハングル語に接して、その発音がとても難しいと思いました。簡単にカタカナで表すことができない発音が多いのですが、先生が繰り返し繰り返し声を出して発音をする勉強をして

くれたので、最後には受講生の人たちは発音の違いを聞き分けることができていました。

また、文字の形についても、組み合わせで出来ているという本当に基本を教えてくださいましたので、少し分かってきました。でも、やっと、どうにかちょっとだけ分かりかけて来たのになーというところで終わってしまいました。

もっと先生とも、受講生の皆さんとも話をしたかったです。

本当にあっという間の5日間でしたが、中身の濃い勉強が出来たと思います。この講座に参加して本当によかったですと思いました。



中国語講座を受講して

野口経夫さん
(吉浜)



この度、ゆがわら国際交流協会主催の中国語講座を受講し、大変有意義に学ぶことができました。

今まで中国の友人達とは、日本語が堪能なために中国語と接する機会が少なく、簡単な中国語での会話ができたらと、折に触れ感じておりました。

9月6日の新聞紙上に、ゆがわら国際交流協会の講座募集が掲載され、内容も初級レベル、計5回の講座ということで、挨拶程度の会話を習得したいと、楽しみ

に出席いたしました。

初日より本格的な北京語を基礎より学習し、初めは正しい発音ができず戸惑いました。特に大切な四声や母音、子音の発音を毎回繰り返し練習した結果、どうにか慣れることができました。

受講者に1人の落伍者もなく、終了できたことは何よりと思っております。そして中国語が更に身近に感じられ、受講した方々とも楽しく学習できたことは、ゆがわら国際交流協会と李先生の熱心なご指導のお陰と深く感謝いたしております。

本当にありがとうございました。



2000,10/21~23

ウボン教育大学(タイ) 教員グループが来湯



湯河原駅にて最後の別れ
チッドハタイ・ヌタサタパナ助教授と
ホストの長谷川俊子さん

10月21日から23日までの日程で、タイのウボン教育大学の教授・助教授11名が湯河原を訪問した。ウボン大学からは2度目の来訪である。一行は全員、町内の各家庭でホームステイをし、交流を深めた。

初日の21日はホストとの対面式と簡単な歓迎会を

行っただけの行事で、各家庭での交流に重点を置いた。

2日目は町内観光を行った。午前10時町役場集合、大観山、不動滝、ゆかりの美術館と周り、観光会館広場でのオータムフェスティバルを見学。ここで



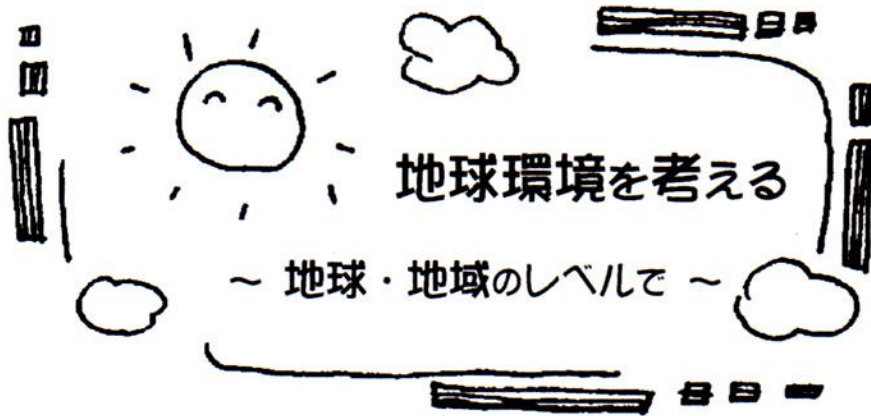
「どうぞよろしく」商工会館での対面式
ランラウエーウォン助教授夫妻と
ホストの松山洋子さんと友人の守屋セイさん

昼食。杉山副会長の奥さんの点てるお茶を全員で味わったあと、星ヶ山へ向かった。

最終日の23日は午前9:46発で湯河原を発つという慌しい日程だったが、彼らにとっては町民との友好を深めて満足そうであった。この企画は私達協会と友好関係にあるアジア交流研究所が主催した。



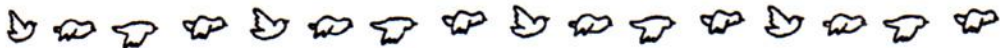
「また会いましょう！」
再会を約しての全員での記念撮影 (at湯河原駅)



講師/アネッテ・シャーナ先生 (ドイツ国籍)

平成13年1月18日 (木) 午後7時から湯河原町商工会館において、研修活動委員会 (露木芳江委員長) 主催の国際理解講座が開かれました。当日は、大変寒い夜になりましたが、30人近い参加者により、熱気のこもった講座になりました。

講師には、Annette Schorner (アネッテ・シャーナ) さんを迎え、「地球環境を考える～地球・地域のレベルで」をテーマに、約一時間半の講演とディスカッションが行われました。環境問題最先進国のドイツから来日しているアネッテさんは、詳細なデータと、スライドを用いて、具体的な問題を提示されました。



アネッテさんのお話は、来日直後に買い物へ行き、欧州では既に禁止されている農薬や抗生物質を使用した農産物が売られていたのを見て、大変驚いたということから、始まりました。なんと、最初からショッキングなお話です。

ドイツでは、約4500年前から環境問題に頭を悩ませていたと言う、資料も残されているように、長い歴史を経て、環境保護を考えることが、ごくごく当たり前のこととして、国民に浸透しているそうです。



日本とドイツの環境保護運動の比較では、一番身近な運動として、ごみの減量化も取り上げられました。徹底したごみの分別収集により、紙は86%、ガラスに至っては100%近くが、リサイクルされているそうです。(1999年調査)

生ごみについては、自宅の庭で、堆肥にすることが多いそうですが、集められたものは、そこに発生するメタンガスからバイオガスが作られ、電力として使用されるのだそうです。

また、ひとりひとりの努力や工夫に加え、行政や企業への圧力をかけることも、大切な運動だということです。面白い例として、過重包装をあげていました。買い物をした後に、余分な包装紙を、買ったお店において帰ってくることで、販売店や製造企業に対して、圧力をかけていくのだそうです。この運動は、実際にドイツで行われたものだそうです。



「このままで行くと地球の将来は…」

熱弁を振るうシャーナ先生

農業・観光と環境については、開発を進め利便性を追求するよりも、良い環境を保護していく事で、集客能力も高まり、経済効果も高くなるということでした。自分が旅行に行くときのことを考えると、成るほど、美しい自然こそが財産になるのだと、思い至ります。

スライドでは、日本でも問題に成っている、ヒートアイランドの対策として、屋根や屋上の緑化が紹介されました。また、霞ヶ浦でも行われている、植物使った浄水方法、バイオガスプラント、市場の様子なども紹介されました。

講演の最後は、参加者からの質問、意見交換などが行われました。

原子力発電の危険性もあるが、火力発電により発生する大気汚染物質をどう考えるかとの質問には、ドイツの基本的姿勢が感じられる答えが有りました。



「現時点では、火力発電にも問題があるが、一番の問題は、使わなくなったときに、原子力発電所をどう処分する抑象を見据憲な環境保護は今を生きる私達の責務なのです。

参加者の皆様からの多くの質問は、環境問題に対する関心の深さを如実に表しているものでした。

講演後は、お茶を飲みながらの親睦会をかねた雑談の時間となりましたが、多くの方が、アネッテさんを囲んで、踏み込んだ質問をしていました。

最後の最後まで、熱気に溢れ充実した、国際理解講座になりました。



(by Kumi Kogure)

皆様からのご寄稿を待ってま〜す!!



会員皆様の機関紙「Dear地球民」です。エッセイでも、和歌や俳句、絵画や漫画、写真何でも結構です。皆様の作品でいっぱい「Dear地球民」にしたいと願っています。どしどしご応募ください。

(提出先：湯河原町商工会事務局)



「綿菓子」 物語



町の祭礼の境内で、綿菓子が売られる風景は、大人になって郷愁を誘うものだ。子供たちは必ずと言ってよいほど、このザラメを煮詰め、顔の大きさまで膨らんだ菓子を買って求め、その友達も連られて買って、祭りの中にいる気分になったものである。

さて、話は飛躍するが、アメリカでは綿菓子をコットン・キャンディーというが、バブル経済のことを言うそうだ。

約10年以上も好景気が続き、まさに綿菓子の霧のように膨らんだものが、パンクしてしまった。この消費マインドの落ち込みは世界的な規模になり、日本もこの現象から立ち上がれないで、四苦八苦ししている。

日本のバブルが先に弾け、アメリカ人はこの好景気は永遠に続くと思ったのだろうか。この原因がドットコム企業つまりコンピュータ関連企業の株価の下落が原因だと言うではないか。

素人の私には、コンピュータ企業が景気の足を引っ張るなんて理解できないが、所詮コンピュータは道具であり、それを使いこなす技術の競争が激しく、赤字が出てつぶれる企業が多発したのが原因らしい。

ケータイ電話は景気に大いに貢献しているらしい。若者の親指はますます忙しく動きまわり、eメールの交換が盛んにやり取りされて結構なことだ。250文字の中で、メッセージを交換するために、若者だけに通用する略語が使われているらしいが、大人はそっこのけだ。

お正月の挨拶にケータイでは、「アケオメ・コトヨロ」と発信されたら新聞で読んだが、この略語は見事で傑作だと思った。明けましておめでとう、今年もよろしくの意だが、その他の略語はどう使われているのか、覗いて見たいが、オジサンが覗くとエッチと言われそうだ。

リストラされた人達の話は毎日のように報道され、景気の立ち直りが遅れ、政府への非難はかましましいが、綿菓子の甘さはバブルで見事に弾けたが、この後始末を早くして、景気を一日も早く取り戻して欲しい。

森さん・・・コトヨロではなくアトヨロでお願いしますよ。



(石井立夫)